

03 この地域で子どもを産み育てる 産婦人科を開設



産婦人科の医師、助産師が常駐して、安心して出産できる体制を整えました。一般的な分娩台に加えて、畳敷きのスペースを設け、妊婦さんが楽な姿勢で出産できる「フリースタイル分娩」にも対応します。

04 患者の皆さんに寄り添う やさしい病院

アートで気持ちを和らげる
「ヒーリング・アート」

病気の不安やストレスを和らげる空間づくりのため、女子美術大学と連携して、病院内にアートを設置しました。



女子美術大学2年 渡邊さん

このアートのパーツは、昨年11月に土岐市・瑞浪市の親子と作りました。子どもたちが自由に描いた豊かなアートが、患者の皆さんの心を癒やしてくれるとうれしいです。

体の状態をリアルタイムに把握
「スマートベッド」

患者さんの体動・離床・心拍・呼吸などの情報がリアルタイムに把握できるシステムを搭載したベッドを全病室に導入しました。



働きやすさ

- ・女性スタッフに配慮し、医局や仮眠室などに「女性専用エリア」を設けました。
- ・食事や休憩に使えるスタッフラウンジや、病棟中央のスタッフゾーンなど、スタッフ同士がコミュニケーションをとりやすい環境を整備しました。



公立東濃中部病院医療センターのホームページ

地域の安心を支える 公立東濃中部医療センター

また、これまでの診療科に加え、この地域で安心して産み育てる環境を整えるため「産婦人科」を開設し、全36科の診療科で皆さんの健康を支えます。

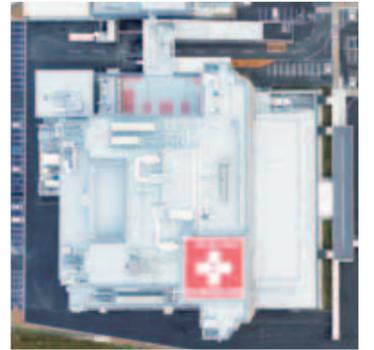
今回の特集では、「頼りがいのある病院」を目指して開院した、新病院の特色を紹介します。

図 東濃中部病院事務組合（土岐市役所内 内線518）

2月1日、土岐市、瑞浪市を中心とした東濃中部圏域の地域医療の拠点となる「公立東濃中部医療センター」が開院しました。大地震でも安全な建物で、感染症の拡大に備えた計画とし、さまざまな状況にも安心して地域医療が提供できる体制を整えました。

01 救急医療が必要な方が受診できる体制づくり 救急医療の拠点

- ▶ 全36の診療科を設置し、年間5,000件を超える救急患者の受け入れができる体制を整えました。
- ▶ 救急搬送専用のエレベーターを設置し、手術室やヘリポートへの導線を確認することで、より迅速な搬送を可能にしました。
- ▶ より高度な医療を必要とする患者さんを、ドクターヘリを利用し、治療が可能な病院へ搬送します。



02 高度な機器や設備を備え、生活復帰をサポート 充実した医療



手術支援ロボット
「ダヴィンチ」

医師が立体画像を見ながら、ロボットを操作して手術を行います。より精密で正確な治療が可能で、切開する範囲も小さく、患者さんへの負担軽減が図れます。



被ばくを抑えるがん治療
「放射線治療装置Edge」

がん治療の放射線による正常組織の被ばくを最小限に抑え、副作用の少ない治療につなげます。



がんの新しい治療
「ハイパーサーミア」

熱に弱いという、がん細胞の弱点に着目した最新の温熱治療装置です。温熱治療による免疫の活性化も期待できます。県内では3番目の導入です。



スムーズな生活復帰のために
「リハビリ支援ロボット

・リハビリステーションセンター」

患者さんのスムーズな生活復帰のため、東濃圏域では最も広い約1,000平方メートルのリハビリエリアを設けました。また、歩く力を取り戻すための支援ロボット「ウェルウォーク」を県内で初めて導入しました。